

# 2027年度 東京情報大学 入学試験募集要項

## 大学院総合情報学研究科総合情報学専攻〔博士後期課程〕

【出願予定の方は、必ず出願前に志望する研究科の指導教員と面談を実施してください】

①指導希望の系列を探す

▶系列について：<https://www.tuis.ac.jp/department/graduate/curriculum/>

②指導希望の教員を調べ、メールなどで直接先生に面談（ZOOM可）依頼をする

▶指導教員について：本紙P6～P10「16. 研究指導等の内容」の教員から探す

▶教員の連絡先：<https://www.tuis.ac.jp/teacher/>

③面談実施後、「出願者調査書（本学指定様式）」に面談日と面談者を記入する

■募集人員 総合情報学研究科 総合情報学専攻（博士後期課程） 3名（一般・社会人あわせて）

出願期間〔必着〕	試験日	合格発表日	入学手続期間〔消印有効〕
2027年 1月12日(火)～1月25日(月)	2027年 2月8日(月)	2027年 2月18日(木)	2027年 2月18日(木)～3月3日(水)

### 1. 出願資格

以下のいずれかに該当する者

(1)修士の学位又は専門職学位を有する者及び2027年3月までに取得見込みの者

(2)外国において修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者及び2027年3月までに授与される見込みの者

(3)外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修し、修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者及び2027年3月までに授与される見込みの者

(4)我が国において、外国の大学院の課程を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了し、修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者及び2027年3月までに授与される見込みの者

(5)次の各号の一に該当する者であって、その後、大学、研究所等において、2年以上研究に従事した者で、本大学院において、当該研究の成果等により、修士の学位又は専門職学位を有する者と同等以上の学力があると認められた者

①大学を卒業した者

②外国において学校教育における16年の課程を修了した者

③外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校における16年の課程を修了した者

(6)本大学院において、個別の入学資格審査により、修士の学位又は専門職学位を有する者と同等以上の学力があると認められた者で、24歳に達したもの及び2027年4月1日時点において24歳に達する者

【注1】出願資格(5)又は(6)による出願を希望する者は、入学資格認定を受けること。

【注2】社会人は、会社・官公庁等において2027年4月1日の時点で2年以上の実務経験を有する者とする。

【注3】一般受験者の中で、英語による発表、投稿論文等のある者については、審査により外国語能力審査を免除することがある。これにより出願を志望する者は、上記の資格審査申請期間に当該資格を証明することができる書類を提出すること。

<出願資格(5)または(6)による出願>

この入学資格認定を受ける場合は、事前に入試広報課に連絡すること。

申請期間	2026年11月18日(水)～11月26日(木)＜郵送必着・窓口＞
審査書類	(1) 入学試験入学資格認定申請書 (2) 研究計画書 (3) 研究業績 (4) 最終学校の卒業証明書 (5) 最終学校の成績証明書 (6) 修士の学位論文に代わるもの (7) 審査の対象となり得る論文・投稿文等(コピー可)
結果通知	文書にて通知

## 2. 出願方法

出願の手続きにおいて、一部インターネットでの登録が必要となります。手順は以下のとおりです。

### ①インターネット出願サイトにアクセス

本学ホームページから「大学出願ネット(<https://tuis.univentry.net/>)」にアクセスします。

### ②新規出願登録(メールアドレスの登録)を行う

メールアドレスを入力し送信後、登録したメールアドレスに認証コードがすぐ届きます。認証コードを入力し、次へ進んでください。

### ③顔写真のアップロード、出願者情報入力

受験票の顔写真データを登録画面上にアップロード(3MB以内のJPEGデータ)し、画面の入力指示に従って、氏名・住所などの個人情報を入力してください。

### ④入試制度など登録

学部学科、入試制度などを選択してください。

### ⑤入学検定料のお支払い

検定料のお支払い方法を選択し、出願期間内に検定料(30,000円)を選択し、納入してください。

振込手数料は、大学が負担します。

<支払方法>▼クレジットカード決済 ▼コンビニ ▼Pay-easy(インターネットバンキングやATMなど)

### ⑥必要書類の印刷

『出願状況の確認』にログインをして、「志願確認票」を印刷してください。

その他必要な書類は、大学ホームページからダウンロードしてください。

### ⑦必要書類を郵送

印刷した「志願確認票」とその他必要書類(調査書等)を全て揃え、ダウンロードした「宛名ラベル」を市販の封筒(角2サイズ:24×33.2cm)に貼付し、出願期間内に「書留・速達(朱書き)」で郵送(必着)してください。

### ⑧出願完了、受験票の印刷

必要書類の受理・入学検定料の入金が確認されると、登録されたメールアドレスに「出願完了メール」が送られます。受信したメールを確認し、受験票を各自印刷し、試験当日に持参してください(受験票の記載内容を必ず確認してください)。記載内容の修正をしたい場合は、大学出願ネットサポートセンター(電話042-732-3951)までお問い合わせください。

## 3. 出願書類

必要書類	該当者	内容
志願確認票	全員	大学出願ネットの出願状況ページから各自ダウンロードし、プリンターで印刷。
出願者調査書	全員	本学所定の様式に必要な事項を記入すること。 <b>出願前に、指導希望の指導教員と面談(ZOOM可)を実施したうえで、指導教授名を記入すること。</b> ▶指導教員について：本紙P6～P10「16. 研究指導等の内容」の教員から探す

必要書類	該当者	内容
		▶教員の連絡先： <a href="https://www.tuis.ac.jp/teacher/">https://www.tuis.ac.jp/teacher/</a>
研究業績	全員	本学所定の様式に必要な事項を記入すること。 研究論文、技術報告、特許及び実用新案等があれば所定の用紙に概要を記入し、研究論文等(修士論文を含む)の写しを提出すること。
研究計画書	全員	本学所定の様式に必要な事項を記入すること。
成績証明書 (和文または英文)	全員	出身大学の学長または学部長によって作成された厳封されたもの。なお、大学院修了(修了見込み)の者は、学部と大学院の両方を提出(発行日から3ヶ月以内のものに限る) ※GPA 第3位まで算出されたものを提出すること
修士課程(博士前期課程)の成績証明書 (和文または英文)	全員 ※1	出身大学によって作成されたもの。(発効日から3ヶ月以内のものに限る) ※1 出願資格(5)、(6)による出願者は、不要。
修士課程(博士前期課程)の修了証明書 (和文または英文)	全員 ※2	出身大学院によって作成されたもの。修了見込み者は修了見込み証明書を提出すること。 ※2 本学博士前期課程出身者および、出願資格(5)、(6)による出願者は、不要。
最終学歴の卒業証明書 (和文または英文)	出願資格 (5)、(6) による 出願者	出身校によって作成されたもの
修士の学位論文など (和文または英文)	全員 ※3	修士論文の内容を2,000字(英語の場合は500words)程度に要約したもの。修士課程修了見込み者は研究途上の内容を同程度に要約したもの。(様式自由) ※3 出願資格(5)、(6)による出願者は、修士学位論文に代わるものを提出。
推薦書 (和文または英文)	任意	出身大学院の指導教員によって作成されたもの。社会人選抜において在職のまま志願する者は、勤務先所属長により作成されたもの。またはそれらに準ずるもの。なお、提出は任意とする。
在留カード(コピー)	外国人 留学生	両面コピー(A4サイズ)を提出。 外国籍(定住者、永住者、日本人・永住者の配偶者等を除く)の者に限り必要とする。在留資格、在留期間が記載されたもの。
大学院入学資格認定書	出願資格 (5)、(6) による 出願者	出願資格(5)、(6)による出願を希望する者のみ提出すること。
その他	該当者	本研究科が必要とする書類

#### 4. 検定料

30,000円(インターネット出願システム「大学出願ネット」上で支払い方法を選択します)

#### 5. 選抜方法

試験時間	一般	社会人	試験時間	備考
10時00分～11時00分	外国語 能力審査(※1)	—	60分	英語辞典1冊の持ち込み可。 ただし、電子辞書等の電子機器類の持ち込みは、不可。

試験時間	一般	社会人	試験時間	備考
11時30分～12時30分	論文試験(※1)	論文試験	60分	分野に関する専門知識等の論述審査
12時45分～	面接試験	面接試験	15分程度	研究計画等に関する口頭試問

※1 本大学院博士前期課程から引き続き、博士後期課程へ志願する者は、外国語能力審査及び論文試験を、修士論文の最終試験による審査をもって代えるものとします。

## 6. 試験会場・試験時間

試験日	試験時間	試験会場
2027年2月8日(月)	<b>【集合:一般】</b> 9時30分 <b>【集合:社会人】</b> 11時00分 <b>【外国語能力審査】</b> 10時00分～ <b>【論文試験】</b> 11時30分～ <b>【面接試験】</b> 12時45分～	東京情報大学(千葉県千葉市若葉区御成台4-1)

※試験当日は、受験票を持参してください。

※出願書類、外国語能力審査(該当者のみ)、論文試験、面接試験の結果を総合して合否判定します。

## 7. 注意事項

- ・出願の際に入力した情報および提出した出願書類に不備があった場合、出願を受け付けないことがありますので、十分注意してください。提出された書類等に不明な点があった場合は、入試・広報課から連絡をしますので、速やかにその指示に従ってください。
- ・送付された書類および納付された検定料は、原則として返還しません。
- ・出願時に収集した個人情報(住所・氏名・生年月日等)を、入学試験実施、合格者発表、入学手続およびこれらに附随する業務のために利用します。その際、当該個人情報の漏洩・流出・不正利用等がないよう、必要かつ適切な管理を行います。また、上記業務の全部または一部を委託する場合があります。その場合、委託先に対し、契約等により必要かつ適切な管理を義務付けます。なお、個人が特定されないように統計処理した個人情報を、大学における入学者選抜のための調査・研究の資料として利用します。あらかじめご了承ください。
- ・身体機能等の障害や疾病等により、受験・就学に際して配慮を必要とする場合は、出願に先立ち、出願開始日の1か月前までに必ず入試・広報課までお問い合わせください。

## 8. 不正行為について

(1) 次のことをすると不正行為となることがあります。

- ①出願時に、本学に提出した書類・資料、提供した情報等に偽造・虚偽記載・剽窃等があること。
- ②カンニング(カンニングペーパー・参考書・他の受験者の答案等を見ること、他の人から答えを教わることなど)をすること。
- ③使用を認められていない用具を使用して問題を解答すること。
- ④受験票(表・裏ともに)をメモ代わりに使用するなど、何らかの書き込みをすること。
- ⑤試験時間の合図、もしくは試験監督者の試験開始の指示の前に問題冊子を開き、解答を始めること。
- ⑥試験終了の合図、もしくは試験監督者の試験終了の指示の後に、筆記用具や消しゴムを持ち続けていたり、解答を続けていたりすること。
- ⑦試験時間中に、答えを教えるなど他の受験者を利するような行為をすること。
- ⑧試験時間中に、携帯電話、スマートフォン、ウェアラブル端末や携帯音楽プレーヤー等を身に付けていること。
- ⑨試験時間中に、携帯電話・時計・携帯音楽プレーヤーの音(着信、アラーム、振動音等)を鳴らすこと。
- ⑩試験時間中に、問題冊子や解答用紙を試験室から持ち出すこと。

- ⑪試験室において、試験監督者等の指示に従わないこと。
- ⑫試験室において、他の受験者の迷惑となる行為をすること。
- ⑬志願者以外の者が、志願者本人になりすまして試験を受けること。
- ⑭試験終了後、解答用紙を提出しないこと。
- ⑮その他、試験の公平性を損なう行為をすること。

(2) 不正行為が疑われる場合は、注意をすることや事情を聴取することがあります。

(3) 試験の際に不正行為があったと認められた場合には、受験した入学試験の成績を無効とし、当該年度に行われる入学試験の受験は認めません。また、入学検定料も返還しません。

## 9. 合格発表

合格発表日	2027年2月18日(木)13時00分
-------	---------------------

- ・大学出願ネットの「出願状況の確認」から合否が確認できます。
- ・発表は、合格発表日の13時00分から行います。
- ・発表開始時刻直前はWEBサイトへのアクセスが集中する恐れがあります。画面が開きにくい場合は、時間をずらしてWEBサイトにアクセスするようにしてください。
- ・合否に関して電話および大学構内の掲示、郵送による合否発表は行いません。
- ・郵送による合否通知の発送は行いません。合格通知が必要な方は、「入学手続システム」からダウンロードする“振込依頼書”を使用してください。

[合否確認方法]

- ①大学出願ネットにログインし、「出願状況の確認」ボタンをクリックします。
- ②「詳細確認」ボタンをクリックします。
- ③「出願状況詳細」ページの画面下に合否が表示されます。
- ④「入学手続はこちら」ボタンをクリックすると、入学手続画面に遷移します。

①合格発表済み

学部	学科	受験番号	合否	お支払い状況
大学院	総合情報学研究科	302002	合格 入学手続はこちら➡	<ul style="list-style-type: none"> <li>Ⓢ お支払い方法：窓口支払</li> <li>Ⓜ お支払い金額：30,000円</li> <li>● お支払い状況：入金済み</li> <li>■ 受験番号：302002</li> </ul>

## 10. 入学手続

入学手続期間	2027年2月18日(木)～3月3日(水)
--------	-----------------------

- ・本学の入学手続は、WEBによる入学手続システムを使用します(以下、「入学手続システム」)。入学手続を完了するためには、入学手続システムによる「WEB登録」、「入学金等の納付」、「提出書類[消印有効]」の3つをもって、完了とします。
- ・ログインには、「受験番号、出願時に登録したメールアドレス」が必要です。
- ・入学手続時には、①誓約書(本学所定様式)②住民票などの書類が必要です。詳細は、「入学手続要項」でご確認ください。
- ・インターネット出願時にアップロードした顔写真データは、入学手続時には引き継がれません。学生証に使用する顔写真を再度アップロードしてください。
- ・登録するメールアドレスが icloud のメールアドレスの場合は、ドメイン指定をしても届かない場合がありますので、他のメールアドレスの設定を推奨します。 [ドメイン設定]入学手続システム @campusconnect.jp

## 1.1. 納付金

入学手続き時には、「分納 1/2 回目分」の金額を納入することとなります。

(分納 2/2 回目分は、入学後、口座振替による納付を予定しています)

単位 (円)

研究科		大学院後期									
学年		1年次			2年次			3年次			
区分		1年分	分納		1年分	分納		1年分	分納		
			1回目分	2回目分		1回目分	2回目分		1回目分	2回目分	
納付金内訳	入学金	270,000	270,000								
	授業料	840,000	420,000	420,000	870,000	435,000	435,000	900,000	450,000	450,000	
	演習費	160,000	80,000	80,000	160,000	80,000	80,000	160,000	80,000	80,000	
	整備拡充費	100,000	50,000	50,000	100,000	50,000	50,000	100,000	50,000	50,000	
	諸会費(代理徴収)	25,000	25,000		10,000	10,000		25,000	25,000		
	諸会費内訳	後援会	入会金	10,000	10,000						
			年会費	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000		
		校友会	入会金	5,000	5,000						
			終身会費						15,000	15,000	
	納付金合計		1,395,000	845,000	550,000	1,140,000	575,000	565,000	1,185,000	605,000	580,000

**後援会:** 父母により構成され、父母と大学との親睦を深めるとともに、在学生の勉学や学生生活の充実を図る活動を支援することを目的とする。

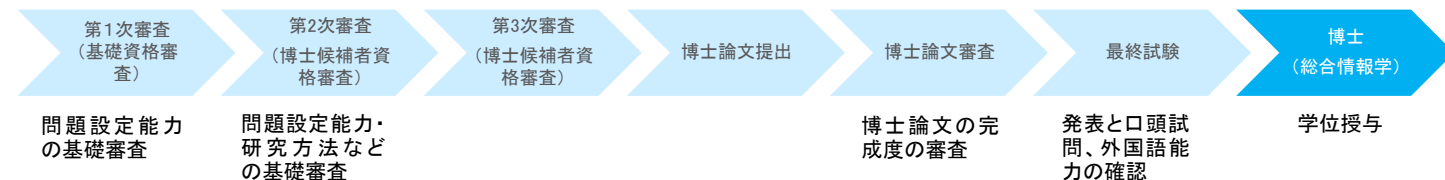
**校友会:** 卒業(修了)生相互の親睦と社会活動の助長を図り、本学および学校法人東京農業大学の発展に寄与することを目的とする。

## 1.2. 入学辞退

入学手続き完了後に入学を辞退する場合は、所定の手続きを完了することにより、入学金を除く納付金を返還します。

入学辞退による納付金の返還請求書期限は、2027年3月31日(水)15時00分(本学必着)です。

## 1.3. 学位取得までの流れ、学位



## 1.4. 博士後期課程修了の要件

(1) 博士後期課程に3年以上在学していること

(2) 必要な研究指導を受けた上、博士論文の審査および最終試験に合格すること

## 1.5. 学位

本大学院博士後期課程修了者には、「博士(総合情報学)」の学位を授与する。

## 16. 研究指導等の内容 (2027年度予定)

研究指導の分野	職名	氏名	研究指導等の内容
情報システム系列	教授	斎藤 卓也	<p>&lt;高度な AI 組み込みシステムによる極限環境下での自律・遠隔制御に関する研究&gt;</p> <p>本研究では、惑星探査ローバ等の極限環境下で動作するロボットシステムにおいて、AI を用いた高度な自律制御および通信制約下での遠隔操作アルゴリズムの深化を目指す。特に、宇宙探査における深刻な通信遅延や非定型な地形への適応といった複雑な課題に対し、エッジ側でのリアルタイム処理と高度な推論をいかに両立させるかを主眼に置く。</p> <p>博士後期課程では、前期課程までに培った組み込み技術や AI の知見を深化させ、以下の活動を重点的に行う：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学術的新規性の探究： 通信遅延を含めた操縦系における予測制御や、エッジ AI による環境認識の高速化など、既存手法の限界を打破する新しいアルゴリズムを提案・開発する。</li> <li>・実証と最適化： 開発したアルゴリズムを実際の惑星探査ローバや大規模システムに適用し、計算コスト、消費電力、リアルタイム性の観点から高度な最適化を図る。</li> <li>・研究マネジメント： 大規模な惑星探査プロジェクト（種子島や鳥取などのフィールド実証）においてリーダーシップを発揮し、システム全体の設計・評価を主導する。</li> <li>・国際的な貢献： 研究成果を査読付き論文や国際会議にて発表し、ソフトコンピューティングやロボティクスの応用に関する新しい知見を世界に発信する。</li> </ul>
情報システム系列	教授	鈴木英男	<p>&lt;一方向性ハッシュ関数の応用に関する研究&gt;</p> <p>代表的暗号学的に安全な一方向性ハッシュ関数には、MD5、SHA-1、SHA2、SHA3 (Keccak) などがある。研究は次のステップで実施する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. まず、これら基本アルゴリズムの構造を徹底的に理解する。</li> <li>2. 使用するアルゴリズムを選定する。</li> <li>3. 選定したアルゴリズムのプログラムを理解し、プログラムを数ブロックに分割し、スピードへの影響度を調べる。</li> <li>4. 選定したアルゴリズムを応用する用途を考える。</li> <li>5. 一方向性ハッシュ関数を応用したプログラムを開発する。</li> </ol>
情報システム系列	教授	富田瑞樹	<p>&lt;空間情報科学に関する情報技術を応用した生態学的研究&gt;</p> <p>生物資源の供給や気候の調整など、人間の福利に欠かせない生態系サービスをもたらす生物多様性が、土地開発や乱獲、外来種の侵入、社会経済的構造の変化、気候変動などの影響により低下しつつある。地域で、あるいは世界的に進行しつつある生物多様性の危機に対応するためには、個体群生態学や群集生態学、景観生態学などの生態学に関する知識や経験と、地理情報システムやリモートセンシングなどの空間情報科学に関する情報技術の応用、Web 等に公開された環境データの処理技術、フィールド調査の計画策定手法、調査によって得られたデータの解析技術が必須である。</p> <p>本研究室では、生態学における基礎的、応用的課題に取り組みながら、学生が博士前期課程までに得た上述の知識や経験、技術に立脚しながらもそれらを深化させることと、生態学における課題の解決を目標に研究活動を進めている。博士後期課程への進学、および、研究課題の設定に際しては、事前に指導教官との面談と十分な議論が求められる。</p>

研究指導の分野	職名	氏名	研究指導等の内容
情報システム系列	教授	朴 鍾杰	<p>&lt;衛星データを用いた時系列環境解析及び機械学習による物体認識に関する研究&gt;</p> <p>近年異常気象によって地域的に災害が頻繁に起り、いったん発生すると社会的・経済的損失が大きい。地球環境解析は人間と自然が調和として捉え、地域レベルから地球レベルへ発展しながら因果関係を考える。エルニーニョ現象やラニーニャ現象による地域的異常気象の影響(洪水や干ばつ、高温や低温現象)はその地域から遠く離れた場所の大気と海洋の環境変化によってもたされた結果(テレコネクション)である。そのため、グローバル衛星データを用いて時系列的異常変化地域の抽出と環境変化パターンを調べローカルへの影響を予測する。本研究では衛星データ(MOIDS、Landsat など)を用いて自然災害(洪水や干ばつなど)における実被災状況の分析と気候条件による被災予測をシミュレーションによって行う。</p> <p>一方、画像認識では機械学習による物体認識を行う。地震や地すべりなど被災範囲が狭い地域では高解像度衛星やドローン画像を用いて機械学習による被災状況を解析する。機械学習によって得られた被災状況図(土砂崩れや倒壊建物など)は地理情報システム(GIS)と連動し解析することでより迅速な人命救援活動に必要な重要なデータの一つになる。</p> <p>本研究では、デジタル画像から得られる特徴を調べ、その特徴が何を意味しているかを考える。また、機械学習によって迅速かつ正確に解析することを研究する。</p>
情報システム系列	教授	花田真樹	<p>&lt;次世代のネットワーク・セキュリティ技術に関する研究&gt;</p> <p>次世代のネットワーク技術・セキュリティ技術に関する研究を行う。現在、次世代の ICT 基盤となる様々なネットワークが提案され、発展してきている。代表的なネットワークとして、コンテンツ指向ネットワーク、センサネットワーク、アドホックネットワーク、P2P ネットワークなどがある。各種ネットワークでは、そのネットワーク固有の通信性能や通信品質に関する問題が存在する。</p> <p>本研究では、各種ネットワークの通信性能や通信品質に関する問題点を整理し、それらの問題点を解決するためのネットワーク技術に関するより高度な研究を行う。加えて、近年のネットワークの発展に伴い、ネットワークを介したサイバー攻撃も急増している。安全性確保の観点から、各種サイバー攻撃に対処するためのセキュリティ技術として、Web サイトへの攻撃検知・防御手法や Web サイトの診断手法、悪性サイト解析・検知手法、マルウェア解析・検知手法などに関するより高度な研究を行う。</p>
情報システム系列	教授	原田 恵理子	<p>&lt;情報社会における学校教育臨床及び教育実践学に関する研究&gt;</p> <p>子どもたちを取り巻く環境の変化を的確にとらえ、時代や社会の要請と新しい教育の潮流を見据えて、児童・生徒の資質・能力を適確に評価できる観点を持った確かな授業実践力、ICT を活用した教育の可能性と、教育現場における諸課題に対して、深い理解と考察力が求められる。そのため、教育実践学と学校教育臨床に関する知識や経験、研究手法と得られたデータの分析に関する深い理解が必須となる。本研究室では、学校教育臨床における基礎的・実践的課題に取り組みながら、博士前期課程までに得た知識や技術、経験、実践的指導力を深化させる、または教育臨床の実践の中から教育や指導という営みと相互作用の中で生じた課題に基づいてその経験や体験を深化させ、磨き、構造化するといった研究活動を進める。さらには、心理・行動上の問題(いじめ、ストレス、自己肯定感の低下など)の原因を心理学的な観点から探究し、心の教育・カウンセリング・予防教育・発達支援等に関する専門性を高め、予防的教育や介入プログラムを構築する研究・実践も行う。</p>

研究指導の分野	職名	氏名	研究指導等の内容
情報システム系列	教授	マッキン ケネス ジェームス	<p>&lt;ソフトコンピューティングの応用に関する研究&gt;</p> <p>ソフトコンピューティングは、従来手法では解析できない、あるいは扱いにくかった複雑な問題を取り扱う計算技法の総称である。人工ニューラルネットワークや、遺伝的アルゴリズム、ファジィ理論などに代表されるソフトコンピューティング手法は、不精密さ、不完全さ、不確かさを許容し、扱いやすさ、頑強性、低計算コストを達成することを目的とする。このようなソフトコンピューティング手法は、実世界の複雑であいまいな問題の解決に重要な役割を果たす。</p> <p>本研究では、ソフトコンピューティングの実問題への応用を行う。またその過程において、従来のソフトコンピューティング手法の改良、および新しいアルゴリズムを提案し、ソフトコンピューティング応用に関する新しい知見を獲得することを目指す。研究は企業との共同研究を積極的に行い、提案手法の実応用を進める。</p>
情報システム系列	准教授	村上洋一	<p>&lt;生体分子間の相互作用メカニズム及び相互作用予測に関する研究&gt;</p> <p>生体内では数多くの生体分子が働いて生命活動を支えており、互いに相互作用してネットワークを形成し、さまざまな生物学的な機能を生み出している。そのような生命活動において重要な生体分子の分子機能だけでなく、そのネットワークの全体像やさまざまな生物学的機能を生み出すメカニズムを明らかにするためには、生体分子間相互作用に関する深い理解が必要である。本研究では、生体分子間相互作用の理解、また創薬を支援するシステムの開発を目指して、以下の2つの研究に取り組む。</p> <p>(1) 生体分子間相互作用の進化的及び物理化学的な解析: 生体分子の分子認識メカニズムや分子機能の解明を目指して、生体分子の配列や構造、また相互作用データなどの進化的及び物理化学的な特徴を解析する。</p> <p>(2) 生体分子間相互作用を予測するためのシステム開発: (1)の解析から得られた知見に基づいて、標的とする生体分子の機能的に重要な相互作用部位や相互作用相手を予測する手法を開発する。</p>
情報メディア系列	教授	圓岡偉男	<p>&lt;情報社会の理論社会学的研究&gt;</p> <p>現代を特徴づける情報社会を理論社会学的に研究する。現在、様々な社会理論が存在するが、本研究で援用、検討する主理論は、ドイツの社会学者、Niklas Luhmann(1927～1998)の提唱する社会システム理論である。Luhmannの理論は、コミュニケーションを社会システムの構成要素と捉えるもので、コミュニケーションの連鎖を通して社会システムの自己産出(Autopoiesis)を特徴づける理論である。この理論は独自の概念を駆使しながら展開される。そして、その概念も含めてLuhmannの理論となる。ここではLuhmannの理論のほか、先端的な社会理論を用いて、現代の情報社会を理論的に捉えることにより、情報社会の本質的構造の解明を行う。本研究指導は情報社会の理論的基礎研究の立場から行われるものである。</p>

研究指導の分野	職名	氏名	研究指導等の内容
情報メディア系列	教授	堂下浩	<p>&lt;金融市場における資金需要者の債務行動に関する研究&gt;</p> <p>金融市場の実態を資金需要者の観点から実証研究する。一般に金融システムに関する研究は資金供与者側からマクロ的な視点で捉える傾向が強いが、本研究では資金需要者の観点から金融市場の実態と法制度のあり方について考察する。特に、金融市場でも信用リスクの高い借り手である、中小零細事業主や消費者の債務行動に注目して研究を行う。企業向けの融資に関する研究は先行研究の実績が豊富であるが、個人の属性で融資判断を行う消費者向けの貸し出し、特に無担保・無保証ローンに関する研究は少ない。また、企業融資に関しても、法人の財務内容よりも経営者本人の個人属性の情報が融資判断に強い影響力を及ぼす中小零細事業主への貸し出しに関する研究も先行研究が少なく、その理論化を進める研究は関連学会でも遅れている。したがって、本研究ではこうした資金需要者の債務行動を、収集されたデータを検証することで解明し、高リスク層における金融取引の理論化を図る。</p> <p>また、金融と情報を融合した先端的なサービスであるフィンテックにも着目して、その普及の意義と現行制度の課題について研究対象としたい。こうした研究対象に関しても利用者の観点からの考察を第一の目的とする。特に中国における融資分野におけるフィンテックの動向に関する研究知見も制度設計を含め今後、深化させたい。</p>
情報メディア系列	教授	西村 明	<p>&lt;音メディアとコンテンツの知覚・認知・感性情報処理および価値拡張に関する研究&gt;</p> <p>音メディアとそこで流通する音コンテンツを処理する技術は、メディア技術と信号処理の発達によって、既に現代社会に広く普及している。今後は、既存の音コンテンツの価値を守り、その価値をさらに高め、新しいコンテンツの価値を創り出し、それらコンテンツの価値を測る研究が、さらに求められている。音という情報を、人間がどのように処理しているかに関して、知覚、認知、感性それぞれの面から探求するという人間音情報処理システムの研究をテーマとして掲げたうえで、それらを基礎として音のセキュリティ、メディア品質の向上と測定、新しい音コミュニケーション技術の開発と評価、マルチメディアインタラクション、エンターテインメントなど、さまざまな音に関する新しい応用分野を切り拓くことも研究テーマとする。</p>
情報メディア系列	教授	松下孝太郎	<p>&lt;画像処理およびコンピュータグラフィックスとそれらの教育への利用に関する研究&gt;</p> <p>近年のコンピュータ関連技術全般の進展により、パソコンをはじめとする身近なコンピュータでの高精細な画像やコンピュータグラフィックスの表示が可能となるに至っている。さらにはネット環境の充実により、遠隔でこれらの技術を使用することが可能である。</p> <p>本研究室では、画像処理、コンピュータグラフィックスの基礎から応用研究、さらにはこれらの教育への利用に関する研究・教育を行っている。</p> <p>画像処理では、画像特徴抽出や画像追跡アルゴリズムの開発、コンピュータグラフィックスでは、表示システムやコンテンツの開発などを行っている。またこれらに Web 技術を組み合わせることにより、視覚的効果の高い教育用の学習システムの開発などを行っている。</p>

研究指導の分野	職名	氏名	研究指導等の内容
ヘルスケア 情報系列	教授	山口 豊	<p>&lt;心理的課題からのヘルスケアに関する研究&gt;</p> <p>身体的、精神的、社会的に健康であることは、人々のウェルビーイングを支える要因である。ただ、現代は「ストレス社会」であり、悪性ストレスが心身に否定的な影響を与え、QOLを低下させ、生活習慣病や精神疾患要因になることもある。そのようなことから、保健医療従事者は、患者の健康維持のため、心理社会的情報に焦点を当て、ヘルスケアを実践していく必要がある。そこで、本研究科においては、ヘルスカウンセリング学・臨床心理学・行動科学の知見や心理療法を通して、患者やクライアントのウェルビーイング実現のためのヘルスケアについて研究する。特に、博士後期課程においては、博士前期課程において実証された心理的課題とリンクさせて、患者やクライアントへの支援技法の効果を実証的に研究する。そのために、心理支援していくための各種ヘルスケア技法をすでに取得しているか、あるいは、後期課程において、ヘルスケア技法を取得していくことが望まれる。</p>